

# 油糧用ヒマワリ栽培における早期播種のメリット

福島県農業総合センター 作物園芸部畑作科

## 1 部門名

普通畑作物 - その他 - 生理・生態、作型・栽培型

## 2 担当者

平山孝

## 3 要旨

中オレイン酸品種である油糧用ヒマワリ「春りん蔵」(ホクレン)は、早期播種で以下のメリットがあることを明らかにした。

- (1) 播種時期が早いほどヒマワリ子実の含油率とオレイン酸含有率が高くなる傾向があり、より良質なヒマワリ油の原料になりうるものと思われた(図1)。
- (2) 肥沃な畑では播種時期によってはヒマワリの草丈が2mを越えることもあり、コンバイン収穫が困難になる。5月中旬に播種した場合、播種時期が早いほど草丈および着花位置が低くなる傾向があり、倒伏を抑制し、機械収穫適性を高くすることが期待できる(図2)。
- (3) ヒマワリ栽培においては生育初期の雑草害を回避するために、播種直後の除草剤散布と播種1ヶ月後の中耕培土による除草体系を提示したが、播種時期が早いほど圃場の雑草発生量が少なく、除草剤使用を削減できる可能性が示された(表1)。
- (4) 以上から油糧用ヒマワリの播種時期は5月上旬が望ましいと判断した。ただし、晩霜の危険性がある高冷地などでは播種時期に留意する。

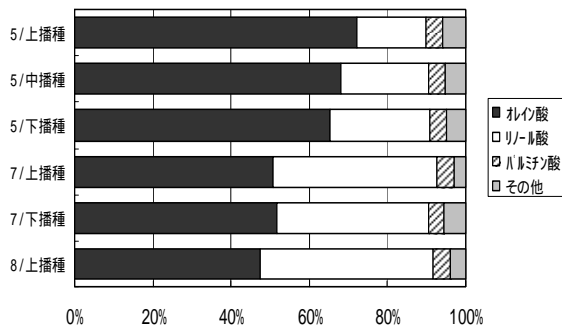


図1 ヒマワリの播種時期と脂肪酸組成(2007年)

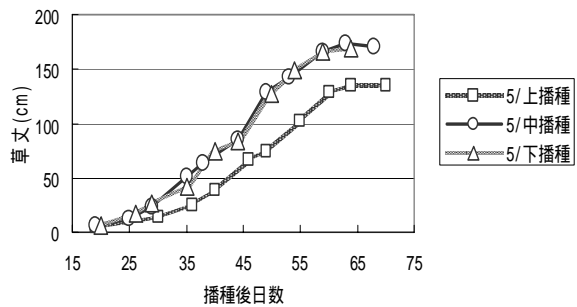


図2 ヒマワリの播種時期と草丈の推移(2008年)

表1 無除草区における雑草発生量(2008年)

播種期	播種20日後 (g/m <sup>2</sup> )			播種30日後 (g/m <sup>2</sup> )			播種40日後 (g/m <sup>2</sup> )		
	イ科	広葉	合計	イ科	広葉	合計	イ科	広葉	合計
5月上旬播種	0.7	0.3	1.0	2.9	7.4	10.3	28.5	53.1	81.5
5月中旬播種	0.5	5.3	5.8	8.3	68.7	77.1	17.0	186.4	203.4
5月下旬播種	2.3	26.7	29.0	7.5	212.5	220.0	20.0	437.5	457.5

## 4 主な参考文献・資料

- (1) 平成19、20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2007、2008)
- (2) 荻原(1987)油脂用ヒマワリの栽培特性とその価値 農業および園芸
- (3) 平山(2008)油糧用ヒマワリの栽培と脂肪酸組成 東北農業研究